

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成26年2月12日

【四半期会計期間】 第67期第3四半期(自平成25年10月1日至平成25年12月31日)

【会社名】 ネポン株式会社

【英訳名】 NEPON Inc.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長兼代表執行役員 福田 晴久

【本店の所在の場所】 東京都渋谷区渋谷一丁目4番2号

【電話番号】 03(3409)3131(代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役兼常務執行役員管理本部長 清家 元

【最寄りの連絡場所】 東京都渋谷区渋谷一丁目4番2号

【電話番号】 03(3409)3159

【事務連絡者氏名】 常務取締役兼常務執行役員管理本部長 清家 元

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次 会計期間		第66期 第3四半期累計期間	第67期 第3四半期累計期間	第66期
		自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日	自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日	自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日
売上高	(千円)	4,620,784	6,497,671	6,193,709
経常利益	(千円)	144,956	571,792	190,834
四半期(当期)純利益	(千円)	108,962	304,492	154,616
持分法を適用した場合の 投資利益	(千円)			
資本金	(千円)	601,424	601,424	601,424
発行済株式総数	(株)	12,028,480	12,028,480	12,028,480
純資産額	(千円)	1,244,370	1,605,387	1,302,347
総資産額	(千円)	5,659,195	6,750,792	5,229,508
1株当たり四半期(当期)純利益 金額	(円)	9.09	25.41	12.90
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)			
1株当たり配当額	(円)			1.00
自己資本比率	(%)	22.0	23.8	24.9

回次 会計期間		第66期 第3四半期会計期間	第67期 第3四半期会計期間
		自 平成24年10月1日 至 平成24年12月31日	自 平成25年10月1日 至 平成25年12月31日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	17.55	17.89

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度にかかる主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 持分法を適用した場合の投資利益については、関連会社がないため記載しておりません。
- 4 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第3四半期累計期間において、当社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期会計期間において、経営上の重要な契約等は行われておりません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、政府の経済政策や金融緩和により円安や株価の上昇、企業の設備投資の増加等により、景気回復が進展しております。さらに、東京オリンピックの招致も決まり、今後の経済成長にも期待がもてます。

このような経営環境の中で、当社は中期経営計画に沿って『お客様が求める環境作りのために私たち(社員)はお客様の声を起点に農と住の明日を創造する会社を目指します。』を事業骨子とし、引き続き販売力の強化や新製品の開発に取り組んでおります。

当第3四半期累計期間において、当社が主力としております熱機器事業は、農林水産省の燃油高騰対策事業や震災復興事業の進行により、主力機器の出荷が堅調に伸び、さらに、当第3四半期会計期間より販売開始した低コスト型ヒートポンプ「誰でもヒーポン」の拡販等もあり、当初計画していた売上を大幅に上回る結果となりました。その結果、熱機器事業の売上高は59億4千5百万円(前年同期比46.5%増)となりました。

衛生機器事業においては、積極的な拡販活動に注力しましたが、簡易水洗便器の需要が減少しており、売上高は5億7百万円(前年同期比1.6%減)となりました。

その他事業においては、農産物販売の推進活動に注力しましたが、搬送機器のメンテナンスサービスが落ち込んだ結果、売上高は4千5百万円(前年同期比5.4%減)となりました。

以上の結果により、売上高は64億9千7百万円(前年同期比40.6%増)となりました。

損益面においては、売上高の増加等により、営業利益は6億5百万円(前年同期比241.1%増)となり、経常利益は5億7千1百万円(前年同期比294.5%増)となりました。

また、四半期純利益は3億4百万円(前年同期比179.4%増)となりました。

(2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期累計期間において、当社が対処すべき課題について重要な変更はありません。

(3) 研究開発活動

当第3四半期累計期間における研究開発活動の総額は、2億4千8百万円であります。

なお、当第3四半期累計期間において、当社の研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	24,000,000
計	24,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成25年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成26年2月12日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	12,028,480	12,028,480	東京証券取引所 (市場第2部)	単元株式数 1,000株
計	12,028,480	12,028,480		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成25年10月1日～ 平成25年12月31日		12,028,480		601,424		445,865

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、実質株主が把握できず、記載することができませんので、直前の基準日である平成25年9月30日時点の株主名簿により記載をしております。

【発行済株式】

平成25年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 46,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 11,939,000	11,939	
単元未満株式	普通株式 43,480		
発行済株式総数	12,028,480		
総株主の議決権		11,939	

(注) 「単元未満株式」欄には、当社所有の自己株式981株が含まれております。

【自己株式等】

平成25年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
ネボン株式会社	東京都渋谷区渋谷 1 - 4 - 2	46,000		46,000	0.39
計		46,000		46,000	0.39

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期累計期間において役員の異動はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第63号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期会計期間(平成25年10月1日から平成25年12月31日まで)及び第3四半期累計期間(平成25年4月1日から平成25年12月31日まで)に係る四半期財務諸表について、清明監査法人による四半期レビューを受けております。

3．四半期連結財務諸表について

当社は子会社がありませんので、四半期連結財務諸表を作成しておりません。

1【四半期財務諸表】
(1)【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成25年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	809,030	1,117,290
受取手形及び売掛金	¹ 1,537,711	^{1, 2} 2,422,272
商品及び製品	536,902	748,444
仕掛品	126,969	243,952
原材料及び貯蔵品	545,349	638,908
その他	¹ 224,230	¹ 124,674
貸倒引当金	17,083	20,218
流動資産合計	3,763,108	5,275,325
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	537,884	525,544
その他（純額）	526,531	520,779
有形固定資産合計	1,064,415	1,046,324
無形固定資産	89,713	112,480
投資その他の資産		
その他	354,175	357,255
貸倒引当金	41,905	40,593
投資その他の資産合計	312,270	316,662
固定資産合計	1,466,399	1,475,466
資産合計	5,229,508	6,750,792
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	² 949,725	² 1,834,241
1年内償還予定の社債	-	60,000
短期借入金	1,021,907	873,171
未払法人税等	53,856	221,675
その他	² 287,211	² 267,240
流動負債合計	2,312,700	3,256,328
固定負債		
社債	-	240,000
長期借入金	836,113	819,661
退職給付引当金	679,631	729,689
役員退職慰労引当金	68,708	74,333
資産除去債務	18,695	14,080
その他	11,311	11,311
固定負債合計	1,614,460	1,889,075
負債合計	3,927,160	5,145,404

(単位：千円)

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成25年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	601,424	601,424
資本剰余金	480,463	480,463
利益剰余金	228,278	520,789
自己株式	7,378	7,502
株主資本合計	1,302,787	1,595,174
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	440	10,213
評価・換算差額等合計	440	10,213
純資産合計	1,302,347	1,605,387
負債純資産合計	5,229,508	6,750,792

(2)【四半期損益計算書】
【第3四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
売上高	4,620,784	6,497,671
売上原価	2,919,198	4,224,012
売上総利益	1,701,586	2,273,658
販売費及び一般管理費	1,524,108	1,668,200
営業利益	177,478	605,458
営業外収益		
受取利息	391	258
受取配当金	1,792	1,972
受取地代家賃	6,300	6,300
その他	9,456	4,776
営業外収益合計	17,939	13,307
営業外費用		
支払利息	46,770	38,220
その他	3,690	8,752
営業外費用合計	50,461	46,973
経常利益	144,956	571,792
特別利益		
固定資産売却益	2,585	-
資産除去債務戻入益	-	3,407
特別利益合計	2,585	3,407
特別損失		
固定資産除却損	1,113	2,369
投資有価証券評価損	-	6,240
会員権評価損	3,400	1,050
特別損失合計	4,513	9,659
税引前四半期純利益	143,029	565,540
法人税、住民税及び事業税	31,106	239,918
法人税等調整額	2,959	21,129
法人税等合計	34,066	261,048
四半期純利益	108,962	304,492

【注記事項】

(四半期貸借対照表関係)

1 債権の流動化

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成25年12月31日)
債権の流動化による 受取手形の譲渡残高	584,093千円 (116,818千円)	266,742千円 (53,348千円)

上記のうち、()内書は代金留保額を示しており、流動資産の「その他」に含めて表示しております。なお、手形買戻義務の上限額は代金留保額と同額であります。

2 四半期会計期間末日満期手形

四半期会計期間末日満期手形の会計処理については、満期日に決済が行われたものとして処理しております。

なお、当第3四半期会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期会計期間末日満期手形を満期日に決済が行われたものとして処理しております。

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成25年12月31日)
受取手形	千円	37,111千円
支払手形	179,521	379,744
設備支払手形(流動負債その他)	309	189

(四半期損益計算書関係)

該当事項はありません。

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期累計期間に係る減価償却費（無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりであります。

	前第3四半期累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)
減価償却費	70,330千円	91,404千円

(株主資本等関係)

前第3四半期累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)

配当金支払額

該当事項はありません。

当第3四半期累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年 6月27日 定時株主総会	普通株式	11,981千円	1円	平成25年 3月31日	平成25年 6月28日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	熱機器	衛生機器	計		
売上高					
外部顧客への売上高	4,057,331	515,482	4,572,813	47,970	4,620,784
セグメント間の内部売上高 又は振替高					
計	4,057,331	515,482	4,572,813	47,970	4,620,784
セグメント利益又は損失()	636,168	67,571	703,740	6,802	696,938

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、農産物販売及び搬送機器サービス等が含まれております。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	703,740
「その他」の区分の損失()	6,802
全社費用(注)	519,459
四半期損益計算書の営業利益	177,478

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

当第3四半期累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	熱機器	衛生機器	計		
売上高					
外部顧客への売上高	5,945,123	507,162	6,452,286	45,384	6,497,671
セグメント間の内部売上高 又は振替高					
計	5,945,123	507,162	6,452,286	45,384	6,497,671
セグメント利益又は損失()	1,118,927	99,948	1,218,875	19,294	1,199,580

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、農産物販売及び搬送機器サービス等が含まれております。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	1,218,875
「その他」の区分の損失()	19,294
全社費用(注)	594,122
四半期損益計算書の営業利益	605,458

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
1株当たり四半期純利益	9円9銭	25円41銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益(千円)	108,962	304,492
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純利益(千円)	108,962	304,492
普通株式の期中平均株式数(千株)	11,982	11,981

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年2月12日

ネポン株式会社
取締役会 御中

清明監査法人

指 定 社 員
業務執行社員 公認会計士 加 賀 聡 印

指 定 社 員
業務執行社員 公認会計士 今 村 敬 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているネポン株式会社の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの第67期事業年度の第3四半期会計期間(平成25年10月1日から平成25年12月31日まで)及び第3四半期累計期間(平成25年4月1日から平成25年12月31日まで)に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、ネポン株式会社の平成25年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。
以 上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. 四半期財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。